

「天災は忘れられたる頃来る」という名言で知られる物理学者・寺田寅彦は、さまざまな科学随筆を書いたことでも広く知られています。今年、寺田寅彦の子ども向け随筆「茶わんの湯」(大正11(1922)年)が鈴木三重吉が主宰する雑誌「赤い鳥」に発表されてちょうど100年の記念の年になります。

「茶わんの湯」は、まるで手のひらの中の茶わんに宇宙の法則を見るような読後感のある作品です。科学と文学の壁を超え、生き生きと自然のふしぎを探った寅彦の作品は、今も新しい発見を私たちにもたらします。

この企画展では、子どもから大人まで楽しめるようなさまざまな仕掛けをこらし、「茶わんの湯」をはじめ、「電車の混雑について」「金米糖」「藤の実」などの寅彦の科学随筆の魅力にせまります。



coffee break

- ・ 科学者たちの名言
- ・ 寅彦の弟子たちによる科学随筆
- ・ 朗読カルチャーサポーターによる作品の朗読(録音)

NEW!



ミュージアムショップでは、寺田寅彦オリジナルグッズをそろえてお待ちしております。

■ 展示構成

I 寺田寅彦について

物理学者で随筆家の寺田寅彦について紹介。



II スチャットと変身! 観察めがねでエクササイズ

表現には「観察」が大切! 科学、文学、美術、音楽4つの「めがね」を通して自然を見てみよう!

III ふしぎいろいろ

貴重な資料と、映像や朗読など五感を使った展示で、寅彦の科学随筆の魅力にせまる!

1 茶わんの湯— 「形の物理学」という発想

茶わんの湯をのぞいたら、
モンスーンが見えてきた?!



初公開

突風のメモ

2 電車の混雑について— 「対称性の破れ」に注目

必ず空いた電車に乗る方法、
なーんだ?



写真提供/とさでん交通株式会社

3 金米糖— 揺らぎの物理

金米糖の謎は、
生命の起源とつながる?!



論文「スパーク」草稿

4 藤の実—「科学的自然観」と「連句的自然観」

藤の実のはじける瞬間、
見たことある人—!



初公開

随筆「藤の実」草稿(個人蔵)

■ 関連企画

● 記念講演会「自然を見る新しい目—寺田寅彦の科学の現代性」

金米糖やキリンのまだら模様、電車の混雑などから、複雑系科学にせまるお話です。

日時 令和4(2022)年9月23日(金・祝)午後2:00~3:30
講師 松下貢氏(中央大学名誉教授)
場所 高知県立文学館 1F ホール
参加費 要当日観覧券
申込 電話または文学館受付にて事前申し込み(定員50名)



● 記念講演会「寺田寅彦とレオナルド・ダヴィンチ—形の科学のキーパーソン」

身近な自然現象を追求した先達の活動を紹介し、それらを理解するための簡単なワークショップを行います。

日時 令和4(2022)年10月30日(日) 午後2:00~3:30
講師 高木隆司氏(東京農工大学名誉教授)
場所 高知県立文学館 1F ホール
参加費 要当日観覧券
申込 電話または文学館受付にて事前申し込み(定員50名)



● 寅彦の実験やってみよう

寅彦が観察した自然のふしぎを、実験で確かめよう

日時 令和4(2022)年10月2日(日)、10月9日(日)
午後2:00~3:30
講師 高知みらい科学館学芸員 岡田直樹氏
場所 高知県立文学館 1F ホール
参加費 要当日観覧券
申込 電話または文学館受付にて事前申し込み(定員30名)

● おはなしキャラバン「まいにちふしぎいろいろ」

絵本や紙芝居でふしぎを感じよう

日時 令和4(2022)年10月1日(土)、11月5日(土)
午後2:00~2:30
場所 高知県立文学館 1階 こどものぶんがく室
演者 当館カルチャーサポーター
参加費 無料(直接会場までお越しください)
※席が埋まっている場合、2回目の公演をご案内させていただきますので、ご了承ください。

● 展示解説

展覧会担当者による展示解説

日時 毎週土曜日
午後1:30~(30分程度)
場所 高知県立文学館 2階 企画展示室
参加費 要当日観覧券
(直接会場までお越しください)

※学校やサークルに向けた団体観覧プログラムを用意しています。(詳細はお問い合わせください)
※新型コロナウイルスの感染状況によって、イベントの内容変更または中止になる場合があります。

